

2 週

チームメンバーを理解しよう

今週の目標：

- ・ 教育問題は一人だけの力では解決できないのでチームとして取り組むためにメンバーを理解する。
- ・ メンバーの名前を覚えるだけでなく、どのような長所をもっているかを理解して今後の協力が円滑に進むように協力する。
- ・ 主体的な学習を進めるためのチーム学習と個人学習の意義を理解する。
- ・ 教育実践の基礎能力を習得することの意義を理解する。

講義(1) チーム分けとチームの構成

>> 02-1-チーム分けとチームの構成

学校教育では国語や算数・数学などの教科を教えておればよいという時代は過ぎました。教育問題はますます複雑になっており、さらに地域社会との関係も重要になってきています。チームで問題に取り組むことが多くなっています。グループ学習では各自の役割分担は明確ではありませんが、チーム学習ではそれぞれが役割を分担しながら学習します。

演習(2) 名前覚えゲーム

>> 02-2-名前覚えゲーム

チーム学習が円滑に機能するためには、お互いに理解しあうことが大切です。その第一歩が名前を覚えることです。そこでまず名前を覚えるゲームをしよう。

演習(3) 長所紹介と相互理解

>> 02-3-長所紹介と相互理解

お互いを理解するためにはそれぞれの長所を知ることが大切です。自己紹介だとおとなしい人や控えめな人が自分を過小に紹介することがあります。しかしそのような人こそ長所をはっきりと表明する必要があります。そこでお互いに協力して長所を紹介するようにしよう。その時に、どのように紹介すれば、他の人にすぐに覚えてもらえるかを考えましょう。

(4) チーム学習と問題解決 >>02-4 チーム学習の意義と規範, 02-5 チームの規範を考える

チーム学習では、それぞれが自分の役割をよく認識しているだけでなく、チームとして協働して問題に取り組むために、お互いに約束を守る必要があります。ここではチーム学習の規範として自律, 協働, 貢献, 責任, 敬意の5つを例示していますが、これを参考に今後の自分たちのチーム学習のルールを決めましょう。

次週までに

「チームの規範を考える」1枚

来週チーム作業で使用

(5) 教育実践の基礎能力を身につける

>> 02-6-教育実践力.02-7-教育実践力の調査

教育実践力は他人から教えられるものではなく、自分から積極的に学習しなければ習得できません。他人に教えることが教師の職務であると

考えがちですが、それよりも大切なことは、教育実践力を体得するために、自分から積極的に学習することなのです。この授業ではこのような実践力の基礎となる能力を学習することを目指しています。

次週までに「教育実践力の調査」 1枚

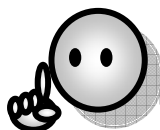
資料で使用されているアイコンの意味

講義

指導者が講義する内容です

演習

皆さんが行う演習の内容です



内容説明

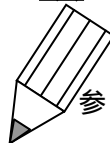
**内容説明：**

学習する内容を説明した資料です。

活動案内

**活動案内：**

演習の手順を示してあります。



参考資料

**参考資料：**

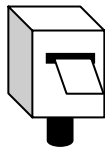
今後の学習に参考になる資料です。



考えよう

**考えよう：**

次週までに考えてくる課題が示されています。



提出  
シート

**提出シート：**

講義中に提出しなければならないシートです。各チームのクリアファイルに入れて提出してください。

# チーム分けとチームの構成

## 1. チーム分けの方針

チームに分けるにあたっては、チームでの学習がもっとも活発に行われ、そこから優秀な学習成果が生まれることを期待して行われるべきですが、現実にはさまざまな理由でこの講座の期間に十分に参加できない場合があります、そのためにチームの進行が障害のないようにすることが重要になります。

学校や大学はもちろん職場でも社会活動でも、これまで一緒に活動したことのない人と、初対面であっても協力して活動しなければならないことがしばしばあります。そのような時に求められるのが社会性です。そのような意味で友達・知人ではなく、関係のない未知の人と協力してチームで活動できることが大切です。

参加者それぞれの経験はまちまちです。多様な人が集まって一つの成果を生み出すことを目指しているので、チーム内での仕事を分担しながら進める必要があります。

1 チームが5 - 6人になるように配慮します。多人数の全員が一つのクラスとして発表すると時間的な制約もあって十分なことができません。そこでこのようなチームが4 - 6チーム集まって集団を作ります。これを学習集団あるいは学団と呼んでおきます。この学団を単位として発表したり報告したりします。

## 2. チームでの役割分担

チーム学習の成功は、それぞれが分担している役割がうまく機能しているかどうかによって決まります。自分の役割をよく理解しましょう。

### 司会 (= チェアマン)

- ・この研修ではメンバー同士の討論で進められますので、発言しやすい雰囲気作りに努め、メンバーの発言を引き出してください。したがって、あまり自分の意見を中心に進めないように気をつけてください(発言の少ない人もいい意見をもっています)。また、チームの作品を作成する時は、時間配分を考慮して、作業内容をメンバーに「声かけ」してください。

技術(=技術的な問題解決を担うインストラクター)

- ・この講座では Internet を使用します。中盤ではワープロ(Word)やプレゼンテーション用ソフト(PowerPoint)を使用します。チームの中で主にパソコン操作のインストラクターとなって、メンバーのつまずきを解消してください。

記録整理(データベースを管理するご意見番)

- ・チーム学習が進むと、メンバーの理解にもズレが生じます。また、作業内容がわからない点も増えてきます。これを放っておくと、この講座がよくわからないまま終わってしまいます。常に学習記録をとったり、「わからないと感じる点」や「意思疎通で食い違う点」のメモをとって、その解決をメンバーに呼びかけてください。

計画管理(=学習マネージャー)

- ・チームの作業をチームメンバーすべてが見通せるように、メンバーと相談しながら計画書を作成してください。また、チームメンバーの出欠管理の責任者になったり、連絡網の筆頭となって、指導者からのお知らせをメンバーに伝えてください。(2人くらいで担当するとよい)

# 名前覚えゲーム

チーム学習を円滑にする人間関係を作り上げる第一歩として、お互いの顔と名前を覚えることや、それぞれの長所を知ることとはとても大切なことです。そこで、1チームまたは複数チームで「名前覚えゲーム」を行い、名前を覚えることからチームワーク作りをはじめましょう。

## 1. ゲームの進め方

全員が輪になるように向かい合って座ります。

最初の人、「わたしの名前はAです。」と自分の名前を言います。

まず右回りで隣に座っている人が、「私はAさんの隣のBです。」と最初の名前をいってから自分の名前を付け加えて言います。

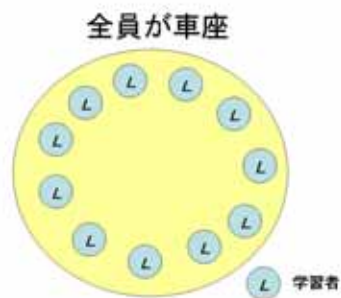
その隣の人は更に自分の名前を付け加えていきます。「Aさんの隣のBさんの隣のCです。」

このように順次、最初の名前から始めて、自分までのすべての人の名前を言ってから、自分の名前を付け加えます。最後の方は全員の名前を覚えることになります。

最後まで名前覚えが成功したら、次は左回りで最後の人からで同じ事を繰り返します。したがって今度は一番最初の人からすべての人の名前を言わなければなりません。

「名前覚えゲーム」の他にも、名前を覚えるいろいろな方法があります。みなさんは、どのような方法で人の名前を覚えますか。どんな工夫が考えられますか。

よい方法があったら、ぜひ提案してください。



このページは白紙です

## 長所紹介と相互理解

チームで学習するためには、お互いをよく理解することが必要です。チームで学習するに先立って、お互いの長所を紹介しあって理解に努めましょう。

先週記入した、「私のプロフィール」を返却してもらいなさい。

チーム内で2人1組になりなさい。奇数の人数のときは1組だけ3人が組みになりなさい。

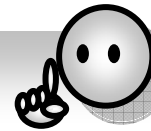
自分の相手の人をチーム全員に紹介しますが、そのためにプロフィールとイメージをよく読んで、長所を紹介します。不明なところは相手の人に確かめなさい。長所をできるだけ聞きだすように工夫しなさい。

チーム全員が理解しやすいように工夫しながら、順番に相手の人の長所をチーム全員に紹介しよう。

このページは白紙です



# チーム学習と問題解決



内容説明

## チーム学習の原則 - これまでの講座や演習とは違う！ -

この講座で試みようとしているチーム学習では、お互いに協力しながら知識を創造することを目指しています。これまでの講座や演習とは異なり、自分から積極的に学習に参加することが大切です。情報社会は、さまざまな問題が複雑に絡み合っているため、一人だけで解決できる課題はごく限られています。

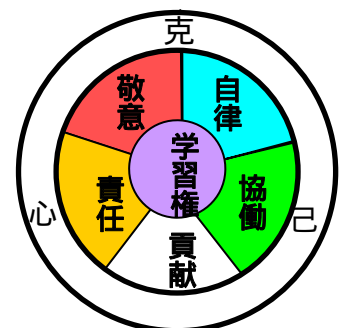
講座のなかでは、コンピュータやインターネットを活用しますが、これらの情報機器は最終的な答えを教えてくれないし、問題を解決してくれません。しかし、われわれが疑問を抱いたり、何かを知りたいと思ったりしたときに、ネットワークを活用すると知ることができます。さらにお互いがネットワークを通じて接続されているので、協力して学習することもできます。これを協調学習(collaborative learning)と呼んでおり、さまざまな分野で試みられている学習方法です。さらに情報社会では、大規模な仕事であっても、各人が机上や家庭に端末をもって仕事を分担し、インターネットを通じて統合されることもまれではありません。

チーム学習では、メンバーのすべてがひとしく学習権をもっていることを前提に、つぎの**5つの原則(ACCRR)**を参考にして進めます。ここで目指しているのは、仲よしグループによるグループ学習ではなく、それぞれが担当するチームでの役割をよく認識して、各人が自分の責任を果たすことを前提として進められる情報社会での協調学習です。このようなチーム学習を実現するための基本的なルールを習得することです。

**課題 2-1** 以下にあげられているチーム学習の規範(約束事)を参考にして、自分たちのチームのロゴを作ろう。下の規範(自律, 協働, 貢献, 責任, 敬意)の欄に1部修正して別の言葉を当てはめてもいいですし、3つくらいの規範を考えて新しく自分たちのロゴデザインを作っても構いません。来週までに個人で考えてくること。(来週チームの案をまとめます)

### 1. 自律(Autonomy)

自分で学習計画を立てたり、学習成果を評価したりするなど、学習することについて自分で責任をもつこと。これは社会人が仕事をするときの基本的な能力です。日常生活の中で自分の関心のある情報にたえず関心をもち、図書館やコンピュータに準備された学習資料を積極的に活用しよう。



## 2. 協働(Collaboration)

学習するとき自分ひとりでは広がりも深みもなく、学んだことを実感することもできません。自分の学んだことがチームとして、あるいは社会の中で活用されて始めてその意義が見出されます。自分ひとりだけでなく、お互いに協力しあって学習することが効果的です。これまでの勉強は他人よりも優れることが目標でしたが、ここでは共に学び共に働くことが大切であり、ネットワーク社会における基本的な能力です。

## 3. 貢献(Contribution)

これまでの学習では、自己修養を重視してきました。自分の教養を高めることが人間としての成長であると考えられてきたのです。そのような教養も大切ですが、これからの情報社会あるいは変動社会では、社会が健全な方向で発展すること、社会の問題を解決するために貢献することが大切です。したがって、他人が学習することを積極的に支援したり、協力したりしましょう。チームで協働して開発したり制作したりしますが、チームのために貢献することが自分の能力開発につながります。

## 4. 責任(Responsibility)

学習は相互に関連しあって進行しますから、自分が分担していることには責任をもって対応することが大切です。ひとりの無責任がチーム全体に迷惑を及ぼし、学習体制を破壊することもあります。遅刻しないこと、分担したことは責任をもって実行すること、欠席するときは必ず他のメンバーに連絡すること。これらは自立した社会人としての最低限のマナーです。

## 5. 尊敬(Respect)

チームで学習するときは、他の人のさまざまな人権にもかかわってきます。他人の著作権、プライバシーなどはもちろんのこと、自分の学習は他の人のさまざまな協力や貢献に支えられているので、他の学習者に尊敬の気持ちをもつことが大切です。

## 克己心(Self-control)

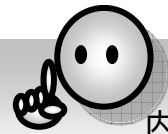
以上の5つの規範を守ることはそれほどやさしいことではありません。自分で計画を立てていても、今夜は眠いから明日の朝にしようとか、友達と電話で話しをしたいから後回しにしようとか、どうもあの人は気が合わないから協力するのに気が進まないとか、自分が自分に課した目標をついつい先延ばしにしたり変更したりしがちです。このような弱い自分に打ち克つことが大切です。スポーツ選手は克己心によって成長しているのです。



このページは白紙です

# 教育実践力の習得

## 教育技術の知識と実力



内容説明

### 他人に教えられるよりも、自ら学習することが大切

教育についての知識があるだけでは、教師として求められる力量として不十分です。自分から積極的に問題解決に挑む態度と能力が期待されているのです。このような能力を教育実践力と呼んでおきましょう。教育実践力は他人から教えられるものではなく、自分から積極的に学習しなければ習得できません。他人に教えることが教師の職務であると考えがちですが、それよりも大切なことは、次の表にも示されているような教育実践力を体得するために、自分から積極的に学習することです。この講座ではこのような実践力の基礎となる能力を学習することを目指しています。

教育実践力	達成指向性，積極性，他者理解力，説得力・影響力，チームワーク力，情報収集力，分析的思考力，概念的思考力，自己コントロール，自信，状況認識力，状況適応力，コミュニケーション力，計画力，自己認識力
学習活動	受容する，共感する，観察する，記録する，分析する，調査する，解釈する，総合化する，構想する，予測する，創造する，モデル化する，命題化する，報告する，広報するなど
テーマ	理想的な仮想の学校を構想し，学校を組織として検討して，多様な学習者を迎えたとき学習指導法を考案してみよう。

以上のような教育実践力はどのように体得されるのでしょうか。従来の勉強のように本を読んで理解・記憶することが重要なわけではありません。自分で発想し，自分で開発し，自分でその有効性を実際に示し，他人を説得できる論理を展開し，実際に行動できるような能力です。教育実践力は一般に実力ともいわれているもので，その人の行動を見るだけでは体得できず，どのような状況のときにどのように行動するのかという判断を体験することが大切です。したがってその能力は実践することによってしか体得できません。また，厳しい自己の反省と創造的な工夫によってのみ体得できるものです。

教育を理念の視点から批判することはやさしいことです。誰もが教育の評論をすることができます。それはちょうど誰でもが野球やサッカーのサポーターになれるのと同じです。しかし，プロの野球選手やサッカー選手になるためには厳しいトレーニングが必要です。それと同じようにプロの教師になるためには厳しい修業が求められます。現在の教員免許ではあまりにも基礎的知識に偏っているので，複雑な問題に対処することができず，およそプロとしての職務を行うためには十分ではありません。運転免許状のようなものです。それを取得したからといって運転が上手になるのではなく，実践的に運転しなければ実力が向上しないのと同じです。

## 物事には5つの段階があります。

学校には教育的価値を実現することが期待されています。その価値観は教育する側の理念だけでなく、学習する側に受け入れられるものでなければなりません。「すべきこと」からスタートして、「できたこと」と「できなかったこと」に終わる一連の活動が必要です。このときに「できたこと」から学ぶのはなかなか難しいですが、「できなかったこと」から学ぶことは改善の手がかりが得やすいです。できなかったことの原因を究明することによって再び同じ失敗をしないようにすることができるからです。

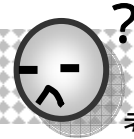
すべきこと	教えるべきこと
できそうなこと	教えられそうなこと
やったこと	教えたこと
できたこと	学んだこと
できなかったことと原因究明	学ばなかったことと原因究明

経験を重視するような専門分野では、失敗することがしばしばあり、その失敗から何を学ぶかが重要なのです。航空工学は経験学ですから、飛行機は墜落してはじめて明らかになる原因がまだ多いので、墜落したときはすぐに原因究明委員会が結成されます。造船技術も経験学ですから、船も沈むということを経験して初めて明らかになる原因が存在するのです。どの専門分野でもプロは上記の5つのすべての段階に精通することが求められています。

教育においては、「すべきこと」はよく論じられるのですが、実際に実践して失敗したときに、その失敗したことの原因を究明するという研究方法がまだ十分に確立していません。アクションリサーチという方法では、自分で実施してみて、その結果から原因を究明しながら進めるという方法がとられています。教育での研究発表はそのほとんどが成功した事例になっていますが、そのために失敗したときの原因究明の技術が発達していません。その結果、同じあやまちを自分でも繰り返す、さらにあちらこちらで繰り返しているのが現状です。講座では失敗したことを恐れずに公表し、それを改善するための教育実践力を身につけよう。

われわれが教室で観察できるのは、学習している活動あるいは教えている活動です。しかし教育での失敗の原因を追究するためには、このように外部から観察できる活動だけでは不十分で、それらの活動の背後にある学習者の知識や感情を推測する必要があります。そのためには高度の判断力が大切であり、その判断力は実践を通してのみ体得することができるのです。この講座ではそのような実践はできませんが、自分たちでさまざまな学習活動を経験することによって、高度の能力を体得することを目指した基礎学習として取り組んで下さい。

# 教育実践力を身につけよう



考えよう

ID 番号( ) チーム番号( ) 氏名( )

## 教育実践力の内容

これからの教師には、教科についての知識だけでなく、教育において当面する問題を解決するなどの実践力をもつことが望まれています。そこでこの教育実践力をつぎのように整理しました。

教育実践力	達成指向性, 積極性, 他者理解力, 説得力・影響力, チームワーク力, 情報収集力, 分析的思考力, 概念的思考力, 自己コントロール, 自信, 状況認識力, 状況適応力, コミュニケーション力, 計画力, 自己認識力
学習活動	受容する, 共感する, 観察する, 記録する, 分析する, 調査する, 解釈する, 総合化する, 構想する, 予測する, 創造する, モデル化する, 命題化する, 報告する, 広報するなど
テーマ	理想的な仮想の学校を構想し, 学校を組織として検討して, 多様な学習者を迎えたとき学習指導法を考案してみよう。

現在のあなたの教育実践力を評価し、今後の努力目標を明確にしよう。つぎの評価点を書き込んでみよう。これは他の人に報告することを目的とするのではなく、学習を進める上での自分の教育実践力の確認だと考えてください。

	私の教育実践力	現在の状態	開発したい
1	何事でも最後まで達成しようとする		
2	何事にも積極的に取り組める		
3	他の人を理解するように努めている		
4	自分のことをできるだけ冷静に認識できる		
5	他の人を説得したり影響を与えるように努めている		
6	チームワークを尊重しチームのために貢献できる		
7	情報を収集することが得意である		
8	物事を分析的に考えることができる		
9	物事を概念的あるいは抽象的に考えられる		
10	自分をコントロールして冷静に振舞える		
11	何事にも自信をもって取り組める		
12	まわりの状況を冷静に認識することができる		
13	まわりの状況に適応することができる		
14	他人とコミュニケーションをとることが苦痛でない		
15	物事を計画的に進める方である		

4: はいそうです      3: ややそうです      2: ややいいえ      1: いいえ

このページは白紙です